



平成29年10月19日

各位

上場会社名 中部鋼鉄株式会社
 代表者 代表取締役社長 重松 久美男
 (コード番号 5461)
 問合せ先責任者 取締役 上杉 武
 (TEL 052-661-3811)

業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月2日に公表した業績予想及び配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成30年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,800	1,500	1,500	1,000	35.62
今回修正予想(B)	21,600	2,200	2,200	1,500	53.43
増減額(B-A)	△200	700	700	500	
増減率(%)	△0.9	46.7	46.7	50.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	16,844	1,555	1,506	997	35.09

平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	44,100	3,300	3,300	2,200	78.37
今回修正予想(B)	46,400	3,900	3,900	2,600	92.62
増減額(B-A)	2,300	600	600	400	
増減率(%)	5.2	18.2	18.2	18.2	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	36,338	3,089	3,042	2,038	72.07

平成30年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	19,400	1,400	1,300	900	32.06
今回修正予想(B)	19,400	2,000	2,000	1,400	49.87
増減額(B-A)	0	600	700	500	
増減率(%)	0.0	42.9	53.8	55.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	14,944	1,424	1,408	964	33.93

平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	39,200	3,000	3,000	2,000	71.24
今回修正予想(B)	40,200	3,500	3,500	2,400	85.49
増減額(B-A)	1,000	500	500	400	
増減率(%)	2.6	16.7	16.7	20.0	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	32,107	2,787	2,751	1,897	67.09

修正の理由

当社のグループの主力セグメントである鉄鋼関連事業におきまして、主原料である鉄スクラップ価格が第2四半期累計期間に想定を下回って推移したため、利益が前回発表予想を上回る見込みであります。

以上のことから、平成29年5月2日公表の平成30年3月期業績予想を上記の通り修正いたします。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成29年5月2日発表)	—	8.00	—	8.00	16.00
今回修正予想	—	9.00	—	10.00	19.00
当期実績	—	—	—		
前期実績 (平成29年3月期)	—	6.00	—	9.00	15.00

修正の理由

当社は、利益配分につきましては、安定的な配当に意を払いつつ、業績に見合った弾力的な配当を実施していくことを基本方針としております。

平成30年3月期の中間配当につきましては、現下の状況に鑑み、直近の配当予想から1株当たり1円増額することといたしました。

また、期末配当金につきましても、平成30年3月期の業績予想等を総合的に勘案した結果、1株当たり10円といたします。これにより年間配当金は、中間配当金9円と合わせて1株当たり19円となる予定であります。

(注)本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上